

高橋 綾子, 魚田 勝臣

専修大学 経営学部 情報管理学科

1. はじめに

われわれの「情報リテラシ」教育の基本方針は「目的指向」である。すなわち、単にアプリケーションソフトの使い方を教えるのではなく、ある目的を達成するために必要な手段、すなわち、情報の収集、情報の分析、情報の発表などの能力を身につけさせることを目的とした。本論文では、その立場で展開した情報リテラシ科目の基礎または導入教育と呼ばれる部分について述べる。

この論文における基礎教育では、目的としている仕事のやり方を教え、それに使うツールを教える、そして全貌から細部へ俯瞰的かつ具体的に教えるのを特徴としている。

2. 基礎として学ぶべき事項

本論文での情報リテラシでは、個人の情報活動である、「問題の発見、情報の収集、論理的な分析や考察、情報の創造、討論、意思決定、報告書の作成、発表」のテーマのそれぞれに完結した仕事を与えて解決させるのを特徴としている。つまり、基礎教育はこうした情報リテラシの各論を学ぶための前提教育と位置づける。したがって大きく捉えるとつぎの2項となる。

- ①情報リテラシが何であるかを理解させること、
 - ②全体に共通する知識や技能を修得させること。
- より具体的にはつぎの順で展開する。

- (1) 情報システムと情報リテラシの重要性
- (2) スケジューリング
- (3) 情報ツールの基礎
- (4) パソコンとパソコンソフトの基礎
(ネットワークの基礎も含む)
- (5) 情報倫理とセキュリティ

情報リテラシ全体を12回の講義とし、初めの3回を基礎教育に当てている。

本論文ではこのうち(2)～(4)に焦点を当てて論述する。

3. 基礎教育の展開

仕事は計画を立てて実行し、反省をしてつぎの行動に備えるのが基本である。そしてすべての活動を記録して進めることが大事である。お膳立てされたことしかやった経験のない学生には、仕事の手順と記録の重要性から説かなければならない。

3.1 スケジューリング

「スケジューリング」では、日常生活をするうえで仕事の標準的な手順を理解させ、活動計画・行動予定の立て方と記録をつけることの重要性を教え、毎日の活動に欠かせない手帳とアイデアの発掘に有効な手段であるメモについて教えることを目的とする。ツールとしては通常の手帳やメモの活用の仕方を示し、さらには電子手帳(PDA)について概要と長所短所を理解させる。

3.2 情報ツールの基礎

情報ツールは、個人の情報活動を効果的かつ効率的に行うための手段として学ぶ、という考えの下で講義を展開する。表1にここで教える情報ツールの分類を示す。世の中では、はじめにコンピ

An Education Plan for the basis of Information Literacy

Ayako Takahashi, Katsuomi Uota,
Senshu University

ュータありきという考えが広まっているが、コンピュータだけがツールではなく、従来型の紙による手帳やメモ・模造紙・手紙なども重要なツールであることを強調する。長所短所を理解したうえで、その時々の仕事やライフスタイルに合致したものを選択して活用すべきであることを教える。

表1 情報ツールの分類

機能と媒体	ツールの名称	
メモ・記録	紙	メモ 手帳
	静止画・動画	デジタルカメラ(デジカメ)
		デジタルビデオカメラ
		イメージスキャナ
		フィルムスキャナ
コミュニケーション	紙	手紙 ビジネス文書(企画書・実行書・報告書など)
	音声	電話(多機能電話)
		携帯電話
		PHS(Personal Handyphone System)
		ISDN(Integrated Services Digital Network)公衆電話
		ファクシミリ(Facsimile、ファックス)
	インターネット	電子メール(Eメールまたはメール) ホームページ
	発表・講義	模造紙
		OHP・書画カメラ
		電子黒板
液晶プロジェクタ		
ビデオ		
スライド		
処理(多機能)	パソコン・パソコンソフト	
	PDA(Personal Digital Assistant) PDAソフト	

3.3 パソコンとパソコンソフトの基礎

パソコン操作に関しては、基本となる部分つまり核の部分を教え、あとは自習によって、その核をふくらませて知識や操作技能を増殖させることを基本的な考えとしている。教えられるのではなく、慣れることが重要である。

基礎教育では予習・復習とも簡単な課題とし、誰でも手順通りに行えばできるよう丁寧な資料を準備し配布することによって初期の段階での脱落

を防止するとともに興味を喚起している。

講義と実習の順序はつぎの通りである。

- (1) パソコンの基礎
- (2) ネットワークの基礎
- (3) パソコンソフトの基礎

ファイル操作や編集・スクロール、検索やヘルプ、日本語入力の仕方などアプリケーションで共通に持っている基本操作については、メモソフトをもとにして実習する。ワープロ機能を使わない理由は、最低限のことを教え、できるだけ早く電子メールやインターネットを使えるようにさせるためである。なお、ファイル操作など大事な事柄については原理も理解させる。

4. おわりに

専修大学経営学部で1999年度より開講した「情報リテラシ」について述べた。学生の反応は良好である。しかし、実習資料の準備不足、予習・復習課題が十分でなかった点、講義と実習の時間配分などに課題が残った。これらについては講義の実施結果を反省し改善する必要がある。また、最小限の知識の範囲をさらに吟味し、核にふさわしい項目の選定とそのための実習資料の実現も今後の課題である。

参考文献

- 1) 魚田勝臣: ニーズから発想した情報リテラシ教育の展開, 平成11年度情報教育問題フォーラム pp.25-26, 1999.6.
- 2) 魚田, 大曾根, 松永, 宮西: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—総論—, IPSJ 第60回全国大会 3L-4, 2000.3.
- 3) 松永 賢次: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—「情報収集」教育における方法—, IPSJ 第60回全国大会 3L-6, 2000.3.
- 4) 宮西洋太郎: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—「情報分析」教育における方法—, IPSJ 第60回全国大会 3L-7, 2000.3.
- 5) 大曾根 匡: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—「プレゼンテーション」教育における方法—, IPSJ 第60回全国大会 3L-8, 2000.3.